

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02392

研究課題名(和文)16・17世紀における物語草子制作と仮名法語の開版の相関性についての研究

研究課題名(英文)The study about production of illustrated scrolls and picture books in the 16th to the 17th century and potential relationships between the aforementioned Buddhist tales and vernacular tales

研究代表者

恋田 知子(KOIDA, Tomoko)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：50516995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：16世紀から17世紀に多数制作された絵巻や奈良絵本の制作の実態を解明することを中心課題に据え、本研究を遂行した。具体的にはまず、ケンブリッジ大学図書館蔵『鼠のさうし』や天理図書館蔵『常磐の媪』などの作品分析をおこない、物語草子と仮名法語との相関関係について明確に示し、国際研究集会における成果報告に努めた。第二に、江戸初期の絵入り版本との影響関係についても視野に入れ、具体的に検討することにより、17世紀後半に最盛期を迎える絵巻・奈良絵本の制作実態の一端を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

16・17世紀に多数制作された絵巻や奈良絵本には、経典の談義や仏教の唱導の影響が少なからず認められる。特に祖師や高僧の教えを説いた仮名法語は江戸初期に開版されたことから、物語草子に多大なる影響を与えたと考えられる。しかしながら、お伽草子や仮名草子、仮名法語といったジャンルや時代による区分から、その影響関係については従来あまり注意を払われずにきたのが現状である。本研究は、具体的な作品の分析を通してその相関性について明示しただけでなく、江戸初期の絵入り版本との相関関係をも明らかにしたことで、ジャンルや時代区分にとらわれない物語草子の制作実態の一端を解明したものと考える。

研究成果の概要(英文)：I aimed at elucidating the actual situation of the production of illustrated scrolls and picture books produced a lot from the 16th to the 17th century and accomplished this study. Specifically, at first I analyzed the work including "Nezumi no soshi" which Cambridge University library possessed and "Tokiwa no uba" which Tenri library possessed. And I showed it about potential relationships between the aforementioned Buddhist tales and vernacular tales and reported the result in the international conference. Second, I also specifically examined the influence relationship with the picture book in the early Edo period. As a result, I elucidated a part of production actual situation of illustrated scrolls and picture books which reached the golden age in the late 17th century.

研究分野：日本中世文学

キーワード：絵巻 奈良絵本 仮名法語 比丘尼御所 仮名草子 尼 尼寺 絵入り版本

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、物語草子をめぐる研究は、本文の読解や生成の問題はもとより、具体的な絵巻・絵本の制作実態の解明、貴顕や寺院など生成・享受の場の検討、東アジアの説話伝承との典拠考証や比較分析など多岐にわたっている。とくに当代文学への影響力から重視される寺院との関連については、全国各地の寺院の聖教・唱導文献調査が急速に進展し、寺院における知の体系が究明されるなか、談義唱導活動ネットワークや僧侶による物語草子受容の実態なども明らかとなりつつある。ただし、草子化への道程や物語草子から談義・唱導の場への還流など、生成・享受の場に照らした変容の具体相については、必ずしも十分な考察が及んでいないのが現状である。

こうした研究状況にあって、報告者はお伽草子や絵巻、語り物など室町期を中心とした物語文芸を「物語草子」として巨視的にとらえ、談義・唱導の場で生成・享受された談義注釈書およびその説話と対照させることで、その相関関係を明確にし、室町文芸の実態について考察してきた。結果、物語草子群の多くが書写、絵巻化、貸借という面で比丘尼御所を介しており、寺社縁起や物語草子、あるいは公家や将軍家、寺家やその周辺に存した伝承・説話が行き交う場と認められることから、室町期の文芸サロンとして位置づけられるとの見通しに至り(2005~2007年度科学研究費の課題「比丘尼御所の文芸文化と室町期の説話・物語草子の研究」)、その成果を2007年度科学研究費の助成を受け、『仏と女の室町 物語草子論』(笠間書院、2008年)として公開した。

上記の研究を起点に、2010~2012年度科学研究費「中近世の尼寺における文芸・文化研究 比丘尼御所を起点として」を遂行し、調査範囲の拡大をはかりながら、中近世の尼寺における文芸営為について考察を進め、成果の一部として、尼門跡・尼寺の関与のもと書写・伝来した書物を例に制作・享受の場に照らした宗教テキスト研究の必要性を論じた(「尼門跡および尼寺 女性のまなざしの許にある宗教テキスト」『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年)。

一方、これまでの課題を遂行する途上、新たな書物の発掘により、貴族圏における仮名法語の形成・享受についても具体的な考察を試みてきた。2008~2009年度科学研究費「陽明文庫蔵仮名法語類の研究 「道書類」を中心として」では、近衛家ゆかりの陽明文庫に伝来する「道書類」の調査・分析に着手し、各宗派の仮名法語とともに物語草子を収める「道書類」について、所有者に三時知恩寺の尼僧が推定される書物がある点や、女性に向けた言説が顕著な点などから、近衛家の子女が入寺した比丘尼御所での形成・享受の可能性を指摘した(「比丘尼御所文化とお伽草子 『恋塚物語』をめぐって」『お伽草子 百花繚乱』笠間書院、2008年)。同様に、室町前期の浄土僧隆堯(1369-1449)の書写で、安土浄厳院にのみ現存する物語性豊かな仮名法語『発名能可利父子抜書』を発掘・分析し、内容および周辺資料の検討から、足利義満、二条良基ら近衛道嗣周辺で述作されたことを明確にした。加えて近世初期までの禁裏の蔵書目録に、隆堯著作・書写本の書名が認められることなどから、当時の貴顕と寺家との書物を通じた交流が推察され、仮名法語と物語草子の生成・享受実態を明示する一例と位置づけた(「浄土宗談義と説話・物語草子 隆堯の著作・書写活動を端緒として」『説話文学研究』47号、2012年)。こうした研究を踏まえ、2013~2015年度科学研究費「尼寺の文芸文化と物語草子・仮名法語における相互連関の研究」では、近世前期の仮名法語の開版状況との関わりを見せる物語草子を取り上げ、禅宗の尼僧の関与なども明らかにしながら、制作実態の解明に努めた(「仮名法語の享受と文芸 大阪市立美術館蔵『はいかひ』絵巻をめぐって」荒木浩編『中世の随筆一成立・展開と文体』竹林舎、2014年、「尼と物語草子」『国語と国文学』92-5、2015年)。

以上のような事例の分析と研究蓄積から、物語草子と仮名法語とがいわば同列にみなされており、相互に関連しつつ変容・享受されていた様相が具体的に浮かび上がってきたのであり、書物を通じた寺院圏と貴族圏との交流実態の一端も明確となった。それは報告者がこれまで取り組み、明らかとしてきた比丘尼御所文化圏での文芸営為と同じ位相にあり、尼寺の文芸文化を相対化する事例ととらえられるものでもある。

2. 研究の目的

2013~2015年度科学研究費「尼寺の文芸文化と物語草子・仮名法語における相互連関の研究」で得られた成果を踏まえ、報告者がこれまでの研究課題で対象としてきた比丘尼御所を中心とした尼寺の文芸文化について、16・17世紀における書物を通じた寺院圏と貴族圏との交流やそこでの物語草子制作の具体相について分析をおこなう。すなわち、尼寺や尼僧の手を経て生成・享受されたと想定される物語草子や仮名法語、および貴族圏伝来の物語草子や仮名法語、そして両者の相互連関の具体相について、法語の書写や開版の動向にも照らしつつ、調査・分析をおこなうものである。物語草子と仮名法語との相互交流をもたらしただけについても再検討することにより、尼寺の文芸文化を相対化することも目指す。さらに、16・17世紀の絵巻・奈良絵本制作について、法語の開版のみならず、江戸初期の絵入り版本との影響関係をも見据え、お伽草子・仮名草子・仮名法語といった従来のジャンル・時代区分によらない物語草子の制作実態の把握を試みる。

3. 研究の方法

16・17世紀における書物を通じた寺院圏と貴族圏との交流の実態解明を目指し、仮名法語の書写・開版動向の整理と物語草子制作について具体的な作品の分析に努める。あわせて物語草子や女訓抄、和歌や連歌等の文芸作品、絵画資料等から、室町期から江戸前期の尼寺、あるいは

尼僧の様相について分析し、尼寺・尼僧の文化史・文芸史的意義について考察する。さらに、法語の開版はもとより、物語草子と江戸初期の絵入り版本との影響関係をも見据え、お伽草子・仮名草子・仮名法語といった従来のジャンル・時代区分にとらわれない物語草子の制作実態の解明に努める。

4. 研究成果

2016年度は、まず具体的な事例を再検討することにより、物語草子と仮名法語とがいわば同列にみなされ、相互に関連しつつ変容・享受されていた様相を導き出し、書物を通じた寺院圏と貴族圏との交流実態の一端を明らかとした。そして、それは比丘尼御所文化圏での文芸営為と同じ位相にあり、尼寺の文芸文化を相対化する事例ととらえられ、そのような事例をさらに蓄積することが必要であることを改めて強く認識にいたった。

上記の内容を具体的な事例とともにまとめ、2017年3月にハイデルベルク大学で開催された国際ワークショップ「写本と版本（慶應義塾大学・ハイデルベルク大学共催）」で、“Relationships between the Publication of Vernacular Buddhist Tales and the Larger World of Vernacular Tales in the Early Edo Period”「江戸初期における仮名法語の開版と物語草子」と題した口頭発表をおこない、多くの貴重な示教を得た。

2017年度は、物語草子・仏書の版本を豊富に所蔵するホノルル美術館のレインコレクションの調査に携わる機会を得られたことから、上記の研究課題を考察する一助として、レインコレクションの物語草子を中心に uptake、2018年3月にホノルル美術館で開催された古典籍セミナー（ハワイ大学マノア校・ホノルル美術館・国文学研究資料館・総合研究大学院大学共催）で、“Introduction to Monogatari Sōshi in the Lane Collection”「レインコレクションの物語草子」と題した口頭発表をおこない、多くの貴重な示教を得た。なお、当日の発表資料については、国文学研究資料館およびハワイ大学マノア校図書館のウェブサイトにて PDF 公開されている。<https://www.nijl.ac.jp/activity/img/20180301seminar5-3.pdf>

また、寺院における貴族との交流をもうかがわせる貴重な資料として、澄憲の「十種供養式」について翻刻紹介し、考察をまとめた（『天野山金剛寺善本叢刊』第二期第三巻儀礼・音楽、勉誠出版、2018年2月）。

さらに、これまでの自身の研究内容を踏まえ、女性と物語草子とのかかわりについて考察をまとめ、研究成果を広く社会に還元できるよう努めた（『異界へいざなう女 絵巻・奈良絵本をひもとく』平凡社、2017年4月）。

2018年度は、国文学研究資料館で開催された国際シンポジウム「仮名・ものがたり・随想 江戸の 知 の展開」（2018年4月20日）で、「物語草子と仮名法語」のタイトルで当該研究の成果を発表した。法語の開版と絵巻制作をめぐる諸例を提示し、その特徴と意義について示すとともに、ケンブリッジ大学図書館蔵『鼠のさうし』について『月庵和尚仮名法語』との比較・分析をおこなった。中世・近世、文学・仏教などの時代やジャンルを超えたパネリストによるシンポジウムであったことから、さまざまな見地から多くの示教を得た。

加えて、天理図書館蔵『常盤の姫』絵巻調査の機会を得られ、その結果、当該研究課題を遂行する上で重要な位置を占める作品であることが判明した。当該作品と仮名法語との関わりについての考察を進め、成果の一端を『新天理図書館善本叢書 24 奈良絵本集 2』（2019年2月、八木書店）の解題にまとめた。さらに、2019年3月15・16日にコロンビア大学で開催された国際シンポジウム“Borders, Performance, and Deities”（コロンビア大学・名古屋大学共催）で、The Aging Body in the Medieval Japanese Tale “Tokiwa as an Old Woman”と題した口頭発表をおこなった。物尽くしの趣向に加え、源氏や伊勢といった古典の教養をちりばめながら、当代の小町像を色濃く投影した姫を造型する『常盤の姫』の特徴を明示するとともに、往来物的な側面や教訓的な性格により、女性による享受が想定され、嫁入り本として制作・享受された可能性があること、さらに『幻中草打画』との共通性から比丘尼御所の尼僧のような高貴な女性による受容をも想定されうることを指摘した。国内外の日本文学・思想史・日本史学・美術史学の研究者から貴重な示教を得た。

2019年度は、天理図書館蔵『静』および『満中』の大型奈良絵本調査の機会を得られ、絵巻・絵入り本の受容に応じた変容を遂げる『静』の様相や寺院唱導から展開を遂げた『満中』の様相についての分析に着手し、成果の一端を『新天理図書館善本叢書 28 奈良絵本集 6』（2019年10月、八木書店）の解題にまとめた。今後継続して考察を深め、成果を公刊する予定である。

なお、本研究の概要の一端を広く海外に発信する試みとして、国文学研究資料館刊行の英文オンラインジャーナル“Studies in Japanese Literature and Culture” Vol.3（2020年3月）に“The March of Dancing Skeletons: Zen Vernacular-sermon Picture Scrolls and Their Development”と題したコラムを掲載した。

<https://www.nijl.ac.jp/pages/ci/jproject/sjlc.html>

以上の考察を契機として、16・17世紀の絵巻・奈良絵本の制作実態の一端が明らかとなったのであり、さらなる実態の解明を目指し、引き続き、2019～2021年度科学研究費基盤研究(C)の助成を受け、研究課題「17世紀後半における奈良絵本・絵巻制作の研究 『十二月絵巻』を中

心に「」に取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 KOIDA Tomoko	4. 巻 3
2. 論文標題 The March of Dancing Skeletons: Zen Vernacular-sermon Picture Scrolls and Their Development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Japanese Literature and Culture	6. 最初と最後の頁 85-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 恋田知子
2. 発表標題 物語草子と仮名法語
3. 学会等名 国際シンポジウム「仮名・ものがたり・随想 江戸の 知 の展開 」国際シンポジウム「仮名・ものがたり・随想 江戸の 知 の展開 」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恋田知子
2. 発表標題 The Aging Body in the Medieval Japanese Tale “Tokiwa as an Old Woman”
3. 学会等名 Columbia/Nagoya University Conference “Borders, Performance, and Deities” (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 恋田知子
2. 発表標題 レインコレクションの物語草子
3. 学会等名 Seminar on Pre-modern Japanese Books in Honolulu
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恋田知子
2. 発表標題 江戸初期における仮名法語の開版と物語草子
3. 学会等名 ワークショップ「写本と版本」
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 石川透・恋田知子・齋藤真麻理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 新天理図書館善本叢書 2 3 奈良絵本集 1	

1. 著者名 石川透・金光桂子・恋田知子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 202
3. 書名 新天理図書館善本叢書 2 4 奈良絵本集 2	

1. 著者名 恋田知子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 112
3. 書名 異界へいざなう女	

1. 著者名 後藤昭雄監修、中原香苗・米田真理子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 1808 (410～421、565～573担当)
3. 書名 『天野山金剛寺善本叢刊』第二期第三卷儀礼・音楽 のうち「十種供養式(翻刻・解題)」	

1. 著者名 石川透・恋田知子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 新天理図書館善本叢書28 奈良絵本集 6	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----